

# President Message

頭取メッセージ

仙台銀行 取締役頭取

## 三井 精一

済に対しても大きな負の影響を与え、世界経済全体を揺るがす問題に発展しています。宮城県においても、海外経済の減速や急速な円高の進行などにより景気の後退感が強まっており、地域金融機関による中小企業への円滑な融資が社会的に要請されています。

実は、当行の前身である「振興無尽株式会社」が誕生した昭和26年当時も、戦後の経済混乱が終息しつつあったとはいえ、宮城県の商工業界は深刻な資金難にあり、中小企業への円滑な融資が大きな問題となっていました。こうした事態を打開するため、当時の宮城県知事・佐々木家寿治氏が新たな地域金融機関の設立を提唱し、資本金の4割を出資した宮城県をはじめとして、仙台・塩釜・石巻・古川（現 大崎）・気仙沼・白石の県内地方自治体、商工会議所、地元経済界等が幅広く出資して設立した「県民銀行」が当行なのです。

これまで宮城県経済は、戦後の経済復興・高度成長期を経て、オイルショック、円高不況、バブル経済崩壊などの幾多の試練を乗り越えてきま

したが、当行は常に地域の中小企業の皆さまとともに歩んでまいりました。

冒頭にお話をした今回の金融危機は、かつての試練を上回るスピードで中小企業にさまざまな負の影響を与えています。しかし、地域経済が厳しい局面にある今こそ、当行は再び設立の原点である「宮城県の方々のために役立つこと」に立ち返り、中小企業の皆さまへ積極的に支援してい

「宮城県の方々のために役立つ」ことが  
当行の企業使命

地域経済が厳しい局面にある今こそ、設立の原点に  
戻り、中小企業のために役立ちたい。

皆さまご存知のとおり、米国のサブプライム住宅ローン問題に端を発した世界的な金融危機は、世界各国の実体経

仙台銀行  
取締役頭取

くことをお約束いたします。

### 「平成20年岩手・宮城内陸地震」の復興に向けて 今後も積極的に支援

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」では、宮城県北部の栗原市を中心に甚大な被害が発生しました。災害の爪あとは今なお残っており、一刻も早い復興を祈念しております。

当行では、被災された皆さまを支援するため、震災直後から、栗原市及び大崎市の一部店舗の営業時間を延長したほか、緊急融資や便宜的事務の取扱い、通帳等の再発行手数料の無料化、災害義援金などに取り組みました。また、法人融資専門チームが、被災された事業者の皆さまへ直接訪問し、融資・事業相談等に迅速に対応してまいりました。

また、1ヶ月後の平成20年7月には岩手県北部を震源地とする地震が発生したことから、観光業における風評被害は、直接被災された地域にとどまらず宮城県全域へと広がり、宿泊キャンセルが相次ぐなど非常に大きな打撃を受けました。

当行では、この風評被害を一刻でも早く乗り越え、平成20年10月からの「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」を成功させるため、当行グループの全役職員1,200名がキャンペーンキャラクターの「むすび丸パッチ」を着用してPRに取り組みました。また、キャンペーン期間中に開催された大崎市岩出山の伝統行事「政宗公まつり」に当行の「すずめ踊りチーム」が参加したほか、当行ホームページに「がんばろう!宮城」サイトを新設し、仙台・宮城の魅力をもとめた「仙台銀行がある街・WEB限定版CM」を配信するなど支援してまいりました。

震災復興に向けて各分野で懸命な努力が続いておりますが、当行も「県民銀行」として引き続き積極的に復興支援に取り組んでまいります。

### 平成20年度中間決算について

#### 金融危機による金融市場の混乱にともない 有価証券の減損処理を実施

平成20年9月期中間決算は、中期経営計画「新・好品質計画」に基づき法人営業の強化に積極的に取り組んだことから、中小企業向け貸出が平成20年3月末比で11億円増加の1,998億円となるなどの成果がありました。

しかしながら、米国発の金融危機にともなう世界的な金融市場の混乱を受けて、保有有価証券のうち取得価格に比べて時価が著しく下落した有価証券について7億円の減損処理を余儀なくされたことから、経常利益は3億円、中間純利益は1億円の減益決算となりました。

また、減損処理までには至らない有価証券の含み損も大幅に拡大したことや、世界的な金融市場の混乱が当面続くことも懸念されることから、誠に遺憾ではございますが、中間配当の実施を見送らせていただきました。株主の皆さまに深くお詫び申し上げますとともに、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、年間配当につきましては、現時点では未定であり、金融市場の動向及び平成21年3月期通期決算などを踏まえ、定時株主総会までに検討させていただく予定でございます。

## 中期経営計画「新・好品質計画」への取り組み

### 「より多くのお客さまに支持・信頼をいただける銀行」を目指して

現在、宮城県は県内総生産10兆円を目指し「富県宮城」に取り組んでいますが、その戦略の柱は「育成・誘致による県内製造業の集積促進」と「観光資源・知的資源を活用した商業・サービス産業の強化」です。

製造業については、既に宮城県への自動車工場等の進出が決定し、今後は第2次産業の底上げが期待されています。また、もともと当県は観光産業を含めたサービス業のウエイトが高いのですが、今回の「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」を契機に、観光リピーターがさらに増加するように県民・企業が協力して取り組んでいるところです。その一方で、県外金融機関の仙台都市圏への進出攻勢も増しており、金融競争環境はさらに厳しさを増しています。

こうしたことから、当行は平成20年4月にスタートした中期経営計画「新・好品質計画」（平成20年度・21年度）において、宮城県という恵まれた地の利を最大限に活かしながら、金融サービス機能をさらに充実させ、「より多くのお客さまに

支持・信頼をいただける銀行」を目指していくことを経営目標として掲げています。

具体的には、「営業力の強化」、「企業風土の改革」、「内部管理態勢の強化」の3点を重点ポイントとして各施策に取り組んでいるところです。

### 法人融資専門チームを大幅に増員し、中小企業への支援体制を強化

「営業力の強化」については、主力業務である中小企業向け貸出を中心に注力し、地域経済の発展のため積極的に取り組む方針としています。

当行が平成19年度に実施した「お客さま満足度アンケート」（平成20年6月公表）によると、法人のお客さまから、「情報提供力や財務改善へのアドバイス力を高めてほしい」、「フェイス・トゥ・フェイスによる取引を増やしてほしい」などの要望が多数寄せられました。

当行では宮城県内の中小企業等の皆さまへ直接訪問し、融資のご提案や事業相談を専門に担当する「法人融資専門チーム」を設置していますが、このアンケート結果を踏まえ、平成20年度上半期に担当者を従来の6名から26名に大幅

に増員いたしました。また、本部のほか古川支店（大崎市）・岩沼支店（岩沼市）・佐沼支店（登米市）に分室を設置し、担当者が駐在する体制といたしました。本チームは、各地域の営業店と連携して、今まで以上にお客さまへの訪問や面談の機会を増やしており、融資のご提案や事業相談を通じて中小企業等の皆さまのさまざまな事業ニーズにスピーディに対応しています。

## 「新・好品質計画」の構成図

[めざす姿]

より多くのお客さまに支持・信頼をいただける銀行

[計画目標]

### 1. 営業力の強化

中小企業を対象とした地域密着型金融に経営資源を集中的に再配置するなど、営業体制を再構築することでお客さまのニーズにスピーディに対応し、競争力と収益力を向上させてまいります。

- ◎法人営業体制の強化
- ◎営業店事務の合理化
- ◎住宅ローン・個人ローンのトラバン営業の強化
- ◎預かり資産の強化

### 2. 企業風土の改革

人事制度等の見直しにより職員のさらなる能力アップに取り組み、より活力のある企業風土づくりを進めます。

- ◎人事制度・人材育成への取り組み

### 3. 内部管理態勢の強化

業務範囲の広範化や取扱商品の複雑化によるリスクの多様化を踏まえ、内部管理態勢の高度化に取り組み、業務運営の健全性をさらに高めます。

- ◎内部管理態勢の高度化



このほか平成20年7月には、仙台・山形圏域でのビジネスネットワークを創造するため、きらやか銀行との共同商談会を初開催したほか、ABL保証（流動資産担保融資保証制度）や銀行保証付私募債の受託などを通じて、中小企業の皆さまを多面的に支援しています。

#### 情報開示と人材育成を通じて「企業風土改革」に取り組む

情報開示については、株式公開銀行と同様の情報開示に取り組んでいますが、今後も当行の経営・財務内容についてわかりやすい情報開示を進め、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深く理解していただけるよう努めてまいります。

人材育成については、行員の意欲向上と能力発揮を目的に、平成20年10月に「社内FA（Free Agent フリーエージェント）制度」を導入しました。この制度は、業績達成や勤続年数など一定の資格要件を有する行員に対して、職務及び勤務地の希望を申請する機会を与え、人事異動に職員の希望を今まで以上に強く反映させていくものです。

また、銀行業務の多様化に対応するため、キャリア採用を継続的に実施するとともに、非正規社員である「パートナー社員」の積極的な能力開発・活用に取り組んでいます。これからも人事制度の見直し等を進め、より活力ある企業風土の醸成に取り組んでまいります。

#### 「内部管理態勢の強化」がお客さまの信頼につながる

銀行業務が多様化する中、業務運営に内在するリスクも多様化しており、これらのリスクを的確に把握・管理していくことが重要となっています。

こうしたことから、当行では、業務運営の健全性を強化する観点で、法令等遵守、お客さまへの説明態勢、リスク管理態勢など内部管理態勢の高度化を重要課題として位置づけ、継続的に態勢整備に取り組んでいます。

こうした内部管理態勢の強化に向けた取り組みは、銀行業務の礎である「お客さまからの信頼」を得ることにつながり、また、当行の行是である「信を万事の本と為す」にも通ずるものと考えています。

#### これからの仙台銀行

##### お取引先さまや株主の皆さまからの声を大切にして、金融サービスを充実させたい

世界的な金融危機の影響により、宮城県内の中小企業等の経営環境は非常に厳しい局面にあります。しかし、こうした環境であるからこそ、お取引先さまや株主の皆さまから寄せられる声は、私たち役員にとって何よりも大切な財産となります。是非、忌憚のない意見をお寄せください。金融サービスの充実に向けて反映させていきたいと思っております。

当行は宮城県の中企業の皆さまとともに歩む地域金融機関として、皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう精一杯努力してまいります。今後も一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

## President Message

頭取メッセージ